



町長日誌 No.34

町長日誌の第34号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

5月22日(月) AM8:45

今日は、めずらしく出張も会議の予定も無いので町長室でこの日誌を書いています。桜の花も高温の日が続きあつという間に満開を過ぎて葉桜になってしまいました。町長室から見える野山もすっかり濃い緑になっています。今朝の北海道新聞29面に新町でチーズ工房『アドナイ』を経営している堤田克彦さんが21日、帯広市六花亭ホールにおいて道内の食文化発展に貢献した団体・個人に贈られる「第3回小田賞」に見事選ばれ、選考委員の檀太郎さんからブロンズ像と副賞が贈呈されたと掲載されていました。早速、堤田さんにお祝いのお電話をしたところ、「小田賞は六花亭創設者の小田豊四郎記念基金により年に1度、一個人（或いは1団体）を表彰するもので、審査員も毎年著名人御一人で半年間かけて審査するというユニークなもので、今回は檀太郎さんだった」と堤田さんはおっしゃっていました。私は、「小田賞もさることながら食通で知られている檀太郎さんに認められたことが凄いことですね。」と申し上げると堤田さんは恐縮されていましたが、興部町にとっても誇りであり、心からお祝いを申し上げます。今後も更に精進され美味しいチーズを作ってください。

5月9日(火)

札幌市で「酪農振興町村長会議」がありその後、会議を代表して別海・佐呂間・大樹・豊富町の町長さんたちと一緒に道農政部長を始め関係する皆さんに“道産米と道産牛乳の消費拡大運動を連携して行うよう”要請をしてみました。皆さんテレビでご存知の様に高橋知事が「米チェン」で北海道米のCMに出演していますが、今回、酪農地帯は道産米をより多く消費し、稲作地帯は牛乳・乳製品をより多く消費しようと言う提案で、道農政部も早速ホクレンなどと協議検討したいとのお答えを頂きました。酪農家は、18年度数%の減産計画により営農計画を書き直していますが、12月末決算では大きなマイナスが予想されます。また、酪農は機械・飼料・資材・薬品・施設・土木・運送など関連企業も多く、牛乳の減産は北海道経済への影響も少なくありません。北海道は平均に地場産の消費が少ないようです。私たち道民が牛乳・米など道産品にもっと関心を持ち、もっと食べることも大切なことと思います。ちなみに、雪印のコンデンスミルクは全て興部工場で製造され、しかも、興部で搾られた牛乳から（生乳換算約15,000t）造られています。その半分が業務用としてロッテスノー社のアイスクリーム原料となっています。あと半分が家庭用としてチューブに詰められ主にイチゴ用として消費されています。つまり、コンデンスミルクは興部最大の特産品なのです。

春の高校野球予選大会、興部高校は健闘しましたが北見工業に惜敗しました。夏の予選目指して更なる努力を期待します。町内小中学校の運動会も27日から始まります。子供たちには、一生懸命練習して、できれば牛乳をいっぱい飲んで本番で輝いてほしいと願っています。では、また。



町長のメールアドレスは、mayor@town.okoppe.hokkaido.jpです。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。